

第1回連続講座「『いのち』を考える」講師プロフィール

日程	講師（敬称略）	プロフィール
5/9 (水)	柏木 哲夫(かしわざ てつお) 金城学院学院長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	大阪大学医学部卒業、ワシントン大学留学。淀川キリスト教病院で日本最初のホスピスプログラムをスタート。大阪大学人間科学部教授を経て金城学院大学学長。現在学院長。日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長、J R西日本あんしん社会財団理事。著書に『「死にざま」こそ人生 - 「ありがとう」と言って逝くための10のヒント』他多数。
5/16 (水)	窪寺 俊之(くぼてら としゆき) 聖学院大学大学院教授、元関西学院大学神学部教授	埼玉大学卒業、東京都立大学大学院で学ぶ。その後米国に留学、エモリー大学神学部卒業、コロンビア神学大学大学院卒業。リッチモンド記念病院チャプレン、イーストベイフリーメソジスト教会牧師、淀川キリスト教病院チャプレン。博士（大阪大学）。
5/23 (水)	鎌田 東二(かまた とうじ) 京都大学こころの未来研究センター教授	國學院大學文学部哲学科卒業。同大学院文学研究科博士課程神道学専攻単位取得退学。岡山大学大学院医歯学総合研究科社会環境生命科学専攻中退。文学博士。NPO法人東京自由大学理事長。科研：身心変容技法研究会代表。著書に『神と仏の出逢う国』他多数。
5/30 (水)	早瀬 昇(はやせ のぼる) 社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事	大学で電子工学科を専攻するも、学生時代に交通遺児問題、地下鉄バリアフリー化問題などに関わる市民活動に次々に参加。卒業後、フランス・ベルギーの福祉施設で研修後、1978年に大阪ボランティア協会に就職。91年より2010年まで事務局長。関西大学経済学部客員教授、「新しい公共」推進会議構成員、日本NPOセンター副代表理事、日本NPO学会理事なども務める。
6/6 (水)	林田 吉司(はやしだ よしし) あしなが育英会東北事務所長	大学時代、街頭募金の交通遺児育英募金に従事、卒業後は財団法人交通遺児育英会職員、主に遺児の大学生と起居を共にする生活を経た後、あしなが育英会事務局長。阪神大震災遺児のケアハウス「神戸レインボーハウス」初代館長、東京にある「あしなが心塾レインボーハウス」館長などを歴任し、あしなが育英会東北事務所長。
6/13 (水)	上野 創(うえの はじめ) 朝日新聞東京本社販売局首都圏第1部次長、「がんと向き合って」著者	早稲田大学政経学部卒業、朝日新聞社入社。長野、横浜支局、社会部などを経て販売局次長。97年、26歳で進行した精巣腫瘍（睾丸がん）の告知を受け、手術と抗がん剤治療を受ける。その後2度の再発を経験。朝日新聞神奈川版で、闘病手記『がんに向き合って』を連載、同名の本が日本エッセイストクラブ賞受賞。2010年には、がん経験者を取材した『ニッポン人脈記 がん その先へ』の連載で、ファイザー医学記事賞大賞を受賞。
6/20 (水)	永田 萌(ながた もえ) 絵本作家、イラストレーター	デザイン会社、出版社、製菓会社でグラフィックデザイナーとして勤務した後、1975年にイラストレーターとして独立。「カラーインクの魔術師」と呼ばれる技術と色彩感覚、花と妖精をテーマとした夢あふれる作風で、今も第一線で筆をとる。87年『花待月に』でボローニャ国際児童図書展青少年部門グラフィック賞を受賞。
6/27 (水)	山形 謙二(やまがた けんじ) 神戸アドベンチスト病院院長	東京大学理学部卒業、米国ロマリンダ大学医学部卒業。米国ホスピス緩和医療学専門医、米国内科学会フェロー（FACP）、日本緩和医療学会暫定指導医、日本スピリチュアルケア学会評議員、兵庫医科大学臨床教育教授、北アジア太平洋地区アドベンチスト病院協議会会長。著書に『いのちをみつめて』他。
7/4 (水)	西村 隆(にしむら たかし) ALS患者、「神様がくれた弱さとほほえみ」著者	社会福祉法人「神戸聖隷事業団」に入社。障がい者の生活施設や作業所などで働く。1997年ALS（筋萎縮性側索硬化症）の確定診断を受けて退職。以降、自宅で静養中。著書に『神様がくれた弱さとほほえみ』（いのちのことば社）。
7/11 (水)	若林 一美(わかばやし かずみ) 立教女学院短期大学学長、ちいさな風の会世話人	立教大学大学院教育学専攻修士課程修了。ミネソタ大学「死の教育と研究センター」に研究員として留学。IWG（死と遺族に関する国際会議）会員。Illness, Crisis and Loss 編集委員。著書に『死別の悲しみを越えて』他多数。